

山梨・長野両県にまたがる植物について

原 忠 雄

T. Hara : On Plants Distributed in both Yamanashi and Nagano Prefectures.

本誌 20号, 21号の池田登志男氏による佐久東部地域における植物分布についての記事, 興味深く読ませていただいた。そのなかで山梨県側の分布まで論を進められており, 山梨県の関係者として若干の説明が必要と感ぜられたので, 浅学を承知のうえ数種の植物について説明をしたいと思う。なお文中植物分布等について引用文献番号が付していないものはすべて山梨県植物誌⁽⁴⁾によるものであることをあらかじめお断りしておく。

1. ハコネコメツツジ

ハコネコメツツジは富士火山の地域で生れたか, もしくはその地域に適応し, そこから周辺地域に向けて分布を拡大した植物の一つと考えられており, 静岡⁽²⁾, 神奈川⁽³⁾, ⁽³⁾山梨, 長野⁽⁶⁾, 群馬⁽⁴⁾にまたがって分布している。山梨県では三ッ峠を中心とする御坂山系から金峰山を中心とする関東山地に分布している。本種分布の西限は茅ヶ岳で, ハッ岳や南アルプスにはチョウジコメツツジが分布する。近年盆栽ブームから盗掘が多くハコネコメツツジは減少しつつある。

2. ジゾウカンバ

ハコネコメツツジと同様御坂山系から関東山地に分布する。個体としては一ヶ所に群生する型をとるが個体数はあまり多くはない。

3. チチブシロカネソウ

山梨県においては長い間その存在は知られていなかったが, 1965年小林岳氏によって関東山地において発見されている⁽⁵⁾。現在のところ唯一の確認のようである。

4. ブナ

温帯広葉樹を代表する樹木であり, 県内各地に分布しているが, 山梨県北部から長野県中部にかけては大陸性気象のためか分布は少い。ハケ岳に限ってみても長野県側には記載がなく⁽⁶⁾。山梨県側でも殆んどがミズナラに置き換えられている。しかし, ハケ岳の東南麓の美し森山頂と, その西側の川俣川溪谷に僅に見られる。美し森山頂には2本しかないが, そのうち1本は幹周が3 m近い大木であり⁽⁴⁾。学術的にも貴重なものといえる。

5. チョウセンナニワズ

同属のオニシバリは富士山麓や御坂山系などの富士山地域において見ることができる。チョウセンナニワズについては南アルプスの長野県側で確認されている⁽⁶⁾。山梨県側では未確認であったが, 1985年筆者が北岳登山道である大樺沢で発見した⁽⁴⁾。これで南アルプス地域において山梨, 長野両県での分布が確認されたことになる。

6. カイフウロ

シコクフウロ(イヨフウロ)の変種とされており, 御坂山系から大菩薩峠にかけての山地の草原に分布しているが稀である。筆者も東山梨郡大和村と大月市の境である湯ノ沢峠附近で採集している。⁽⁹⁾

7. キンレイカ

池田氏は山梨県にはなく, コキンレイカがハケ岳に稀に産するとしているが, 山梨県においては県下各地域の亜高山帯に分布して普通に見られる。コキンレイカは裏日本型の植物でハケ岳など長野県側にはあっても山梨県側には殆んどないといってよい。

8. クモイコザクラ

コイワザクラの変種とされており, 山梨県の各地にあるものは殆んどがクモイコザクラとされており, 南アルプス, ハケ岳, 関東山地(乾徳山), 御坂山系(三ッ峠)に分布する。この仲間は変異が多く, ハケ岳のものはキョサトコザクラとして区別されたこともあり, 三ッ峠のものは葉が楕円形で横に広いか⁽³⁾。また山梨県植物研究会による御坂山系十二岳の植物観察会(1963.10.2)の折に調査したものはコイワザクラではないかとの意見があった。コイワザクラは神奈川県西部にもあり⁽³⁾。佐久地域にあるとすれば山梨県にあってもしかるべきと思われる。御坂山系および関東山地のものと, ハケ岳, 南アルプスのものとの比較検討も必要があるように思われる。

9. ビランジ

ビランジの仲間にはこのほかにオオビランジ, タカネビランジ, ツルビランジなどが知られている。このうちオオビランジは南アルプスやハケ岳の溪谷に, タカネビランジは南アルプスの特産として高山帯に分布する。ビランジは関東山地に属する茅ヶ岳のみで知られていたが, 最近富士山でも確認されて

いる。⁽⁶⁾ またピランジ類は生育環境により外観的変異を起すという。⁽⁸⁾

10. ヤワタソウ

山梨県では南アルプス、ハケ岳、関東山地の山地に少いが分布している。筆者も茅ヶ岳で見ている。⁽⁷⁾

11. ヤマナシウマノミツバ

ウマノミツバの変種として三ッ峠で発見されたことから名付けられたという。山梨県では御坂山系以外では確認されていなかったが、筆者が関東山地でも南縁に近い湯ノ沢峠で発見、採取しているので、⁽⁹⁾ これより北の山地でも発見される可能性がある。本種は群馬県まで分布している。⁽⁴⁾ なおウマノミツバは谷川などの沢沿に多いが、ヤマナシウマノミツバは尾根筋で見つかっていることから生育環境を異にしているようである。本種は長野県富士見町の釜無川地区での記載があるが、⁽¹²⁾ 再度確認の必要があるように思われる。

山梨、長野両県は本州の中央部に位置し、地形や気象も似ており、共有する山岳も多い。したがって植物の種類や分布様式も類似の点が多い。一方山梨県における植物分布のパターンをみると、ハケ岳を境にして東の関東山地から御坂山系、富士山の地域に主として分布するものと、西の南アルプス地域に主として分布する植物がある。池田氏の論ぜられた佐久東部も富士山地域（箱根・丹沢山系をも含めてもよい）から御坂山系、関東山地（秩父・多摩山系）、更に群馬県南西部を含む佐久東部にまたがる植物分布系として考えられる。この観点から県境を越えて地域ごとの植物分布体系をまとめてみる必要も感ぜられる。ここに取りあげた植物ばかりでなく、池田氏の記せられた植物の中にも、或いはほかにもこの

地域に共通する植物は多いと思う。

本稿が山梨、長野両県における植物研究の交流や発展の一助ともなれば幸いである。

引用文献

1. 池田登志男：佐久東部山地の植物分布，長野県植物研究会誌，21号（1988）
2. 大井次三郎：新日本植物誌（1983）
3. 神奈川県植物誌調査会：神奈川県植物誌（1988）
4. 群馬県高等学校教育研究会生物部会：群馬県植物誌（1987）
5. 小林 岳：山梨県の稀少植物について－1：山梨生物，45号（1989）
6. 長野県植物研究会：長野県植物誌チェックリスト（1988）
7. 中込司郎：昭和52年度山梨生物同好会事業報告：山梨生物，34号（1978）
8. ———— ピランジの形態変異と染色体について：山梨植物研究，1号（1987）
9. 原 忠雄：湯ノ沢峠の植物：山梨生物，41号（1985）
10. ———— ：南アルプスで確認した数種の植物について，山梨生物，42号（1986）
11. ———— ：美し森のブナについて，山梨植物研究，3号（1990）
12. 富士見町教育委員会：富士見町の植物（1979）富士見町
13. 山崎 敬：日本の野生植物Ⅲ（1981）平凡社
14. 山梨県植物誌編集委員会：山梨県植物誌（1982）
15. 渡辺菊夫：昭和63年度の収穫：山梨生物，45号（1989）

〔新刊紹介〕平凡社編「世界有用植物事典」B5判、1499頁、1989年8月発刊。24,000円

堀田満鹿児島大学教授を代表編集委員に、本研究会会員を多数含む200人を越える執筆者によってなされた大著である。有用植物は、文字通り人間または家畜などに役立つ植物であるが、栽培植物、薬用植物、食用植物、飼料植物、鑑賞植物、嗜好植物、香り植物、木材、環境形成など、全世界でさまざまに利用されているし、利用されてきた。当たり前の話であるが、もし地球に多様な植物がなかったら、あるいは種類が限られていたら、人類のこれほどま

での発展はなかったであろう。

本書は、まず植物編で、有用植物をリストアップし、各植物について学名、英名（主として）、分類学的な記載、利用の形態、分布などが記載されている。事項編では、用語、利用方法等について解説がなされている。事典としての有用性はいうまでもなく、環境、バイオ、遺伝子資源など今後ますます植物の重要性が高まっていく中で、いかに植物が人類にとって有用であるか、また大切にしなければならないかを知ることができる。まさに私達にとって大変有用な書である。（K. T.）